

第169回くらしの植物苑観察会 2013年4月27日(土)

-武士が育てた桜草-

茂田井 宏(野田さくらそう会代表)

江戸時代、旗本、御家人は、荒川付近の当時の桜草の自生地(戸田、尾久、浮間)から、桜草を持ち帰り栽培していたようです。そして、自然交配した種子をまいて、なかに花変わりが生み出されると、品種として固定するという方法で、数々の桜草品種を作り出しました。その栽培動機は通説ですが 1. 将軍家の奨励 2. 鷹狩りの場所が桜草の自生地 3. 優秀花は毎年将軍の上覧がありました。

発展の原動力は複数以上の連と呼ばれるグループの結成と連同士の間競争による活性化でした。つまり、連同士がお互いに優秀花作出を競い合ったためです。

連は閉鎖性が強かったようです。会員が退会又は死亡すると、花、用土、鉢が回収されました。このように、桜草は門外不出で一子相伝でなく、連相伝でした。これが、桜草の普及を妨げた最大の原因かもしれません。本日は、武士の桜草修行、幕府瓦解による栽培者を失った幕末の桜草の運命などもお話します。

そのほか、桜草鑑賞の仕方、飾り方、育て方並びに代表的品種の解説をする予定です。展示場では今回より、「現代の新花」展示シリーズ:その1として、巨大輪の桜草を数々作出した宮崎三千男さんの作品をまとめて展示をいたします。これらの作品の解説は展示場ですつもりです。

歴史民俗博物館で、桜草は商業ベースに乗りやすく、消失しやすい品種が多いので、明治以前の品種は古花として、同名異種、異名同種であっても、可能な限り、収集、展示し後世に継承したいと思っています。そして新花は別展示で順次紹介したいと思っています。

(便宜上、新花は明治以降の品種、古花は明治以前の品種と定義しています。)

.....
次回予告 第170回くらしの植物苑観察会 2013年5月25日(土)

「佐倉城址の森について」 原 正利(千葉県立中央博物館分館「海の博物館」分館長)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要